



心をあわせ稔り豊かな一年に



妹背牛町長
田中 一典

晴れやかな新春を、ご家族おそろいで迎えられた事とお慶び申し上げます。今年の干支である亥からは「猪突猛進、勇猛果敢」という勇ましさか浮かび上がってきます。昨年を表す漢字は「災」となりました。新たな元年となる本年は、「災い転じて福となす」ような勢いを感じる年になることを願っています。

さて、嬉しい事と言えば、9区の佐藤忠美さんが昨年の日本農業大賞に続き最高の荣誉であります「天皇杯」を受

賞され、1月18日に皇居で天皇陛下に拝謁されます。陛下もまた、宮中の水田で苗植えをなさる姿は広く知られており、おふたりの間でどのような会話をされるのか、土産話を心待ちにしている一人です。

いま外国人技能実習生として36人のベトナム青年が、本町の二企業で働いています。町のイベントや街中などで、町民の皆様と挨拶を交わす機会もあるかと思えます。心細い外国暮らしのなか、町の人々の笑顔と挨拶は、きつと彼らの心を暖めるものになるでしょう。

「この国は、私たちを暖かく迎え入れてくれている」「この国の国民と共にベトナムも発展しよう」・・・

そういう気持ちで滞在期間中に心の中に育ってくれるよう、行政と企業の協力姿勢を少しずつ探ってゆきたいと考えています。

本町は、増加する高齢の方々の生活支援をはじめ、産業振興

や教育など、様々な課題を抱えています。それらを踏まえ、現在策定を進めている第9次総合振興計画では、子育てしやすい町、移住・定住したくなる町を目指して施策を検討していきます。3千人を切る人口減少地域にあつて、構想を練る自分たちが自身が惹きつけられるような魅力を発見し、育ててゆきたい。「やっぱり、住んで楽しい町だよ」と、自然に口をついて言えるまちづくりを目指します。

本年も議会と共に、町民一人ひとりと向き合いながら、生活に潤いをもたらす笑顔と誠実な対応で信頼に足るまちづくりを進めてゆく所存です。

町民皆様にとりまして素晴らしい一年が始まります事と、稲穂が豊かに頭を垂れる出来秋のように、本町にとつても稔り豊かな一年となりますようご祈念致しまして年頭の挨拶といたします。

議会一丸となつて



妹背牛町議会議長
宮崎 博

新年明けまして、おめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、平成31年の輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、日頃より町議会の運営に対しまして、温かいご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、6月に大阪府北部地震、

7月に西日本豪雨、そして9月には記録的な暴風と高潮をもたらした台風21号や、記憶

にも新しい北海道胆振東部地震など、各地で甚大な人的・物的被害が発生しました。特に9月6日の震度7を観測した北海道胆振東部地震では、土砂崩れをはじめ国内初のエリア全域停電、いわゆる「ブラックアウト」の恐怖に見舞われました。改めて自然の猛威を思い知らされ、災害への備えが重要であること認識したところであります。

一方、日本の経済情勢であります。雇用・所得環境の改善が続く中、緩やかな景気の回復基調が継続中と言われておりますが、地方においてはその実感はあまりなく、状況は依然として厳しいものと考えます。

また、農林水産省は平成30年産米について、北海道は日照不足と低温が響き9年ぶりの「不良」と公表、本町も例外ではありません。農業経営にとっては厳しい出来秋を迎える結果となりました。今後、毎年変化する気候も考慮しながら、さらに良食味・高品質米の生産に努めるべく関

係者が一丸となった取り組みに期待するところであります。

我が国は、内においては急速な少子高齢化が進行し、外に目を転ずれば急激に変化を遂げる国際社会の荒波の中、本町も自らの判断と責任で地方創生と少子化対策などの推進に努めなければならぬと考えます。

本年は統一地方選挙の年で

あり、本町議会も9月に改選を迎えることとなります。我々議員も1期4年の最後の年となりますが、議員一同、果たすべき役割と責任を自覚するとともに、議会一丸となって町発展のため期待に添えるよう精一杯努力をしてみたいと思います。なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。結びに、町民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。

